

秋津防災研究会の活動

1. 秋津防災研究会とは？

- ・ 平成 13 年度の秋津まちづくり会議では、市の「まちづくりパートナーシップ新世紀事業」のプラン策定に際して、防災をテーマとして、自主参加の勉強会である**秋津防災研究会**を立ち上げました。
- ・ メンバーはまちづくり会議の有志と秋津に住む様々な分野の学識経験者 35 名で構成しました。
- ・ 平成 13 年度の研究会の成果として、「**震災に強い秋津を目指して**」の報告書をまとめました。

2. 4つの活動

- ・ 平成 13、14、15 年度は次の 4 つの分科会に分けて検討しました。

1. 大震災を想定した被害シミュレーション
2. 防災意識の啓蒙
3. 自主防災組織連絡協議会、小学校・幼稚園、福祉施設との関わり方
4. 各管理組合・町会での役割と防災体制、災害弱者への体制

それぞれのテーマに関して、秋津まちづくり会議の防災担当（石黒、山本、猪狩、小関の各氏）が分科会のまとめ役を務めました。

防災意識の啓蒙

平成 15 年度習志野市パートナーシップ事業の取り組みとして、平成 16 年 4 月に、**防災マップ**を秋津地区全戸へ配布し、日常の防災への心構え、災害への備えを秋津地区全戸に呼びかけました。

福祉施設との関わり方

平成 15 年 3 月、福祉施設との会合を開催し、お互いの協力関係について以下のように協議しました。

- ・ 地域と福祉施設間は災害時に連携する必要性を感じます。
- ・ 災害時に特別養護老人ホームや老人保健施設は避難空間や医療設備等を地域に提供できる可能性が高いです。
- ・ 一方、特別養護老人ホームや老人保健施設は夜間の職員が少なく、有事の際、地域住民からの応援を希望しています。
- ・ 独居老人等の災害弱者の安否確認に不安があります。
- ・ 総合福祉センターや新習志野公民館に畳敷きの部屋があるが、災害時に直ちに利用できるシステムになっていません。

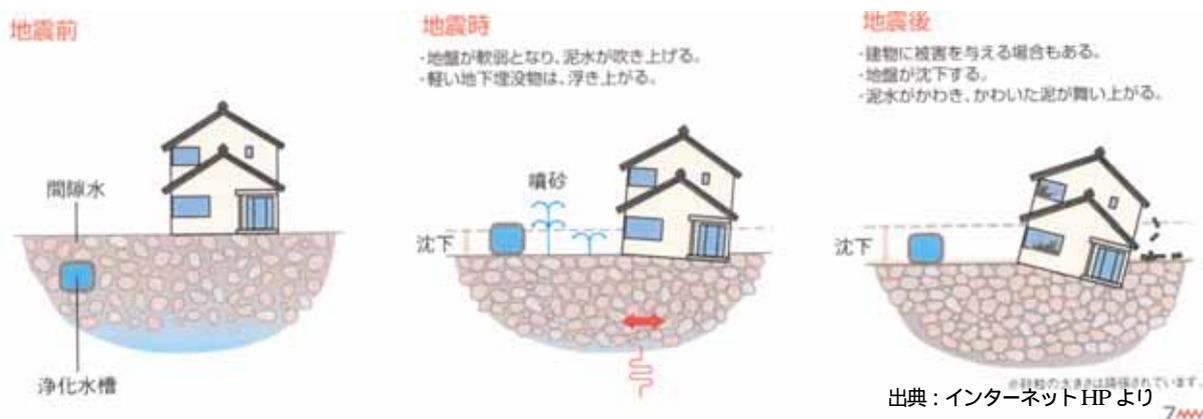
3. 今、秋津地区に求められるもの

- ・ 現在の秋津地区では各管理組合・町会が主体である自主防災会は、独自の活動が主体です。
- ・ 秋津地区全体を想定した時、現状の自主防災会の仕組みだけでは、混乱をきたす状況が考えられます。
- ・ 秋津地区の防災体制を確立し、**災害対策本部**の立ち上げが望まれます。
- ・ 非常時を想定してボランティア組織を整備しておく必要があります。

1. 液状化現象とは？

秋津地区は東京湾の埋め立てにより、建設された住宅地ですので、大地震が発生した場合、液状化に伴う被害は甚大です。

液状化は埋立地で起こりやすく、地震時の強い揺れにより地下の地盤が泥水のような挙動を示す現象です。地震の揺れによって砂などの粒子の間にある間隙が少なくなり、隙間を埋める水が逃げ場を失って圧力を増し粒子どうしが離れてしまうことによって起こります。



最近10年間で液状化現象が発生した地震

1993年	釧路沖地震	M7.8
1993年	能登半島沖地震	M6.6
1993年	北海道南西沖地震	M7.8
1994年	北海道東方沖地震	M8.1
1994年	三陸はるか沖地震	M7.5
1995年	兵庫県南部地震	M7.2
1997年	鹿児島県北西部地震	M6.3 . 6.2
1999年	秋田県沖の地震	M5.4
2000年	鳥取県西部地震	M7.2
2001年	芸予地震	M6.4
2003年	宮城県沖の地震	
2004年	十勝沖地震	
2004年	新潟県中越地震	M6.8

【対策】地盤改良、構造物の改築

2. 地震、液状化による被害

予想される大きな被害として、

地盤の沈下、埋設物の浮き上がり
河川の堤防の崩壊、道路の陥没、
電柱や公園内施設の照明塔の転倒
京葉線の落橋、歩道橋の落橋・転倒
建物全体の不同沈下、陥没
地上躯体の変形が大きい場合はドアの開閉が不能
鉄筋コンクリート造の建物は杭に被害
室内では家具の転倒、下敷き

3. 避難施設としての秋津小学校の安全性は？

- ・ 秋津小学校の建物は、新耐震設計法が実施される以前の設計、施工です。
- ・ 現行の耐震設計に比べて耐震安全性は不十分です。
- ・ 建物の挙動、杭の安全性について危惧されます。
- ・ 秋津小体育館は、災害時の避難施設として十分なものかどうか耐震性を確認しておく必要があります。



4. 上水の被害と対策

【被害想定】

- ・ 約 800 箇所の被害、管路延長 1 km あたり 1.9 箇所の被害が予測されます。
- ・ 習志野市企業局エリアでは、地震に弱い石綿セメント管が多く被害を受けるでしょう。
- ・ 千葉県水道局エリアでは、液状化による被害が多いでしょう。
- ・ 千葉県水道局エリアでは、上流部で被害を受けると給水がストップする可能性があります。
- ・ 復旧に要する日数はおよそ 80 日です。

【住民の震災対策】

- ・ 非常時に備え、飲料水を備えておきましょう。
- ・ 給水量は「1人1日3ℓ」を目安に。

5. 下水道の被害と対策

【被害想定】

- ・ 被害箇所数は約 246 件、延長 1 km あたり 1 箇所程度の被害が予測されます。
- ・ 液状化により国道 14 号線と湾岸道路に囲まれたエリアの被害が多いでしょう。
- ・ 汚水を送るポンプ場で被害を受けると排水がストップするでしょう。
- ・ 復旧に要する日数はおよそ 80 日です。

【住民の震災対策】

- ・ 非常時に備え、風呂等に残り湯を備えておきましょう。
- ・ 各地区への簡易トイレを整備しましょう。

6. 都市ガスの被害と対策

【被害想定】

- ・ 約 2100 箇所の被害、延長 1 km あたり 5.6 箇所の被害が予測されます。
- ・ 復旧に要する日数は およそ 70 日。

【住民の震災対策】

- ・ 非常時に備え、カセットコンロ・携帯コンロ等を備えましょう。
- ・ 2次災害（出火）に備えて、直ぐに火を消しましょう。

7. 電話の被害と対策

- ・ 幹線ルート上の被害として地盤液状化によるマンホールの浮上・地下管路の接続部の脱落、通信ケーブルの破損等が予測されます
- ・ 電柱の倒壊、斜頸等、通信ケーブルの垂れ下がり、破損・切断等が起こるでしょう。

【住民が日常出来る対策】

- ・ 災害時には、災害用伝言ダイヤル（171）が、開設されるので利用しましょう。
- ・ 災害避難所等が開設されると、災害用公衆電話が、指定避難場所に設置されるので利用が可能です。

携帯電話等

- ・ 大量使用による混雑・設備故障による使用不能になります。
- ・ 電池切れによる発着不能が多く発生します。

8. 秋津地区の建物被害・人的被害は？

秋津地区で阪神・淡路大震災相当のマグニチュード 7.2 程度の直下型地震が発生した場合の建物被害と人的被害はどうなるのでしょうか？

習志野市が 1998 年にまとめた「習志野市地震被害想定調査報告書」を元に予測してみました。

秋津 4 丁目、5 丁目では地震による液状化や古い工法で建てられている木造住宅の場合は被害が発生するでしょう。それに伴い人的被害も発生するでしょう。

項目	被害棟数・被害者数の予測	
木造建物全倒壊数	39 棟	被害住棟
木造建物半倒壊数	50 棟	合計 89 棟
木造建物焼失建物	131 棟	
死者数	22 名	
重傷者数	39 名	負傷者数
軽傷者数	405 名	合計 444 名
住宅倒壊による避難者数	179 名	避難者
焼失による避難者数	369 名	合計 548 名

秋津防災研究会 災害被害シミュレーション分科会 メンバー

1 丁目 水口 二三男、菊岡 信之、石黒 俊行、宇田川 安司、

2 丁目 石塚 秀教、坂本 正樹

4 丁目 里見 勇